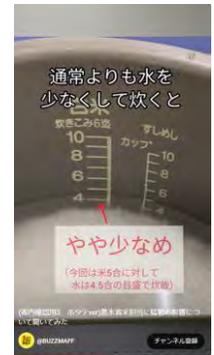


令和5年夏の高温・渇水被害に対する農水省の対応②

- 令和5年今夏の高温・渇水の影響を受け、白未熟粒が多発し、米の農産物検査における1等比率が低下している地域も発生。
- 農産物検査の等級は、精米する際の歩留まりの目安であり、おいしさの格付けではない。
- 白未熟粒は、精米過程で除去される場合が多いが、乳白色になった粒が多いお米についても、早炊きモードの使用や水加減を少なくすることなどによりおいしく炊けることを農水省公式YouTubeチャンネル「BUZZ MAFF（バズマフ）」「maffchannel（マフチャンネル）」にて情報発信。

【BUZZMAFF】

- ・猛暑による影響とおいしく食べる方法について、農水省職員が出演した60秒程度のショート動画を作成
- ・早炊きモードの使用や通常よりも水を少なめにして炊くと、乳白色の粒が多い米もおいしく食べられることを情報発信（令和6年2月末時点 再生回数1.1万）



【maffchannel】

- ・米の食味の専門家の大坪研一教授、お米マイスターの澁谷梨絵さんにも出演いただき、4分程度の動画を作成
- ・米の検査等級はおいしさの格付けではないことについて説明（令和6年2月末時点 再生回数3,577）



～今年の猛暑とお米の食べ方について～

今年の新米は、猛暑で乳白色になっているものもあります。皆さんが目にするお米は精米されているので、気にならないかもしれませんが、もし、買われたお米が、「いつもより少し白いかな？」というときは、この動画を参考にしてください。



新潟薬科大学
大坪研一教授



五ツ星お米マイスター
澁谷梨絵さん

（参考）【JA系統の取組】

- ・JA全農が石川佳純さんを迎え、「新米試食会イベント」を開催
- ・令和5年産の新米を試食して食レポするほか、猛暑の影響を受けたお米について、専門家が炊き方などを紹介

日時：11/15(水)11時～12時

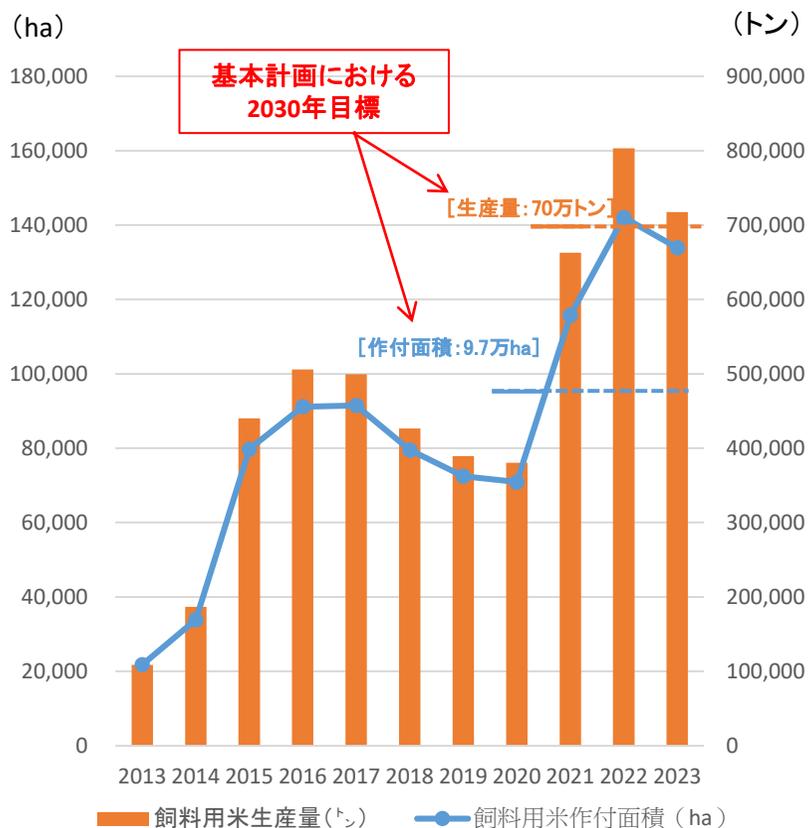
場所：アグベンチャーラボ（東京都千代田区大手町1-6-1）

④ 新規需要米等の取組状況

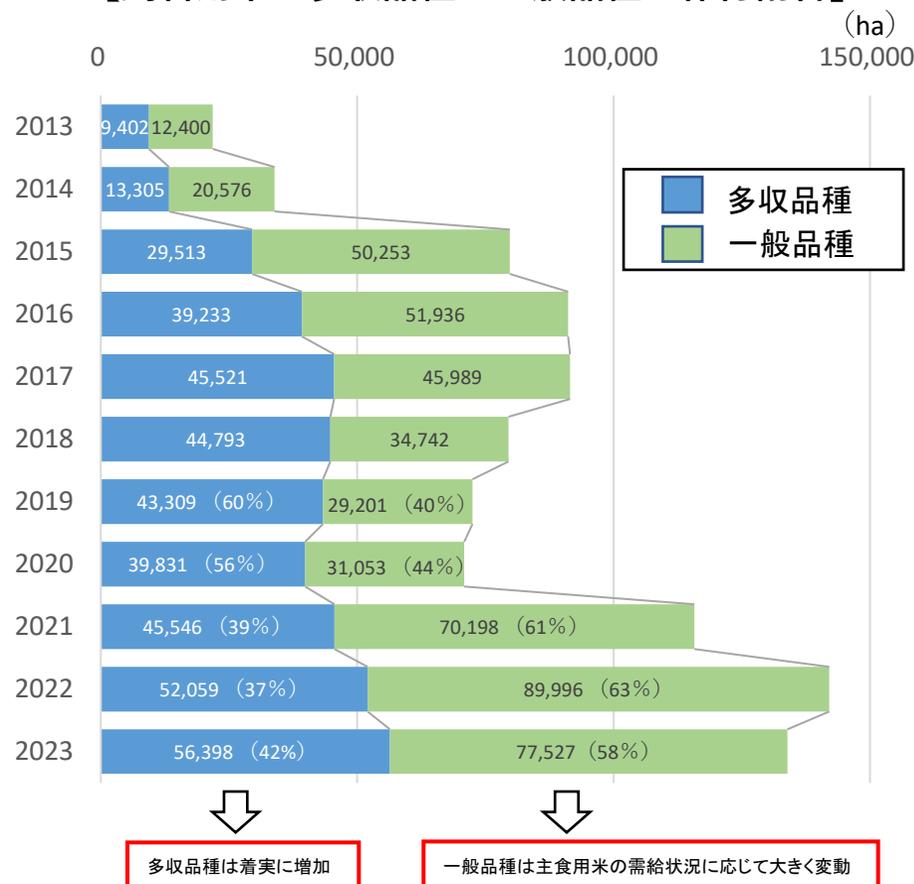
飼料用米の取組状況

- 令和5年（2023年）産の飼料用米作付面積は13.4万haとなり、過去最高となった令和4年（2022年）産から0.8万ha減少したものの、基本計画における2030年目標の作付面積9.7万haを上回る水準。
- 多収品種の取組は着実に増加してきているが、一般品種の取組は主食用米の需要状況に応じて大きく変動。

【飼料用米の作付・生産状況】



【飼料用米の多収品種・一般品種の作付割合】



出典: 農林水産省調べ。
※2023年の生産量については認定計画ベースであり、作柄等が反映された実績ベースではない。

出典: 農林水産省調べ。「多収品種」とは「国の委託試験等によって育成され、一般品種と比べ子実の収量が多いことが確認された品種」及び「一般的な品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内であらあ主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種でないものうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種」である。